

TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム 2015 東京報告会で特別講演を行いました (2015/10/25)

テーマ：被災地の看護学生の米国研修と成果

会場：ジョンソン・エンド・ジョンソン東京本社（東京都）

2015 年 10 月 25 日(日)に、TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム 2015 によって米国のニューヨークとワシントン DC での災害看護研修を終えた 8 名の被災地の看護学生による報告会が東京で開催され、江川新一教授が特別講演として『災害医療の現状と課題』について講演しました。

TOMODACHI プロジェクトは US-Japan Council が中心となって、東日本大震災直後から米国のわが国に対するさまざまな支援を行っており、現在では 4000 名を超える若者が直接の支援を受けた同窓生として全国にいます。TOMODACHI プロジェクトにジョンソン・エンド・ジョンソン社が協力し、被災地の看護学生を米国に約 2 週間滞在させ、災害看護に関する研修を受けさせるというもので、東北メディカル・メガバンク機構、米國小児病院、ニューヨーク日本人会などが全面的に協力しています。ニューヨークでは Goldman Sachs 社、9.11 メモリアル、ニューヨーク大学、国連本部、コロンビア大学、J&J 本社と関連施設、Robert Wood Johnson Hospital での見学体験、ワシントン DC では米國小児病院、米連邦緊急事態管理局(FEMA)、Johns Hopkins 大学、Fairfax County Task Force 1、アメリカ赤十字、日本国大使館、USUHS /CDHAM、NIH の見学体験実習など大変充実した研修になっています。

被災地で自分の体験を通じて看護の道に進もうと考えている看護学生たちは、この研修プログラムに採用されたことをきっかけに、災害看護という日常の看護を超える応用問題を考えることで、自分の夢や未来をよりはっきり描くことができるようになったそうです。メンタルヘルス、事前準備の必要性、コミュニティの形成・育成などに関して研修を通じて学んだことを大変わかりやすく、また感動を込めて発表してくれました。メンターとして同行された仙台医療センター附属仙台看護助産学校の小松恵先生からも研修を通じて学生が大きく成長したことが報告されました。

江川新一教授はわが国の災害医療体制の現状と課題、仙台防災枠組が人々の健康を中心に入れたこと、保健医療と他のクラスターが協力しあうことの意義、防災の考え方などについて講演しました。そのあとにワークショップが開催され、看護師としてのプロフェッショナリズム、他の職種との連携、日ごろの保健医療を充実させることの大切さなどが話し合われました。50 名を超える看護関係の参加者があり、ワークショップおよびそのあとの交流会を通して新たなネットワークが形成されました。この TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラムは継続して開催され、参加した学生たちは、今後わが国の災害看護を支えるリーダーとして活躍することが期待されています。



講演する江川新一教授



50 名以上の参加者に対して災害に関する用語の定義を説明



米国研修を終えた研修生とジョンソン・エンド・ジョンソン社、US-Japan Council, 東北大学、仙台看護助産学校の関係者

文責：江川新一（災害医学研究部門）